

総合学生会館「メディアパーク凜風館」が竣工

～学生たちが有意義な学生生活を見出すキャンパス環境を創出～

課外活動専用施設と情報収集・発信機能の充実を図ったコミュニケーション広場

関西大学では2004年4月から、創立120周年記念事業の一環として、千里山キャンパスに総合学生会館「メディアパーク凜風館（りんぷうかん）」の建設を進めてまいりましたが、このたび2月14日（火）に竣工、3月1日（水）にオープンの運びとなりました。

凜風館は、学生たちの“コミュニケーション広場の創出”を基本コンセプトに、出会いや語り合いによってキャンパスライフを謳歌できる環境づくりのために建設したものです。

最近の大学には、学術・研究と人間教育、先端的研究と社会貢献を結びつける複眼性など、人間の可能性を引き出すようなキャンパス環境が求められています。関西大学では、「凜風館」を学生たちの多様な潜在的資源を引き出し、新しい人間力・社会力を培う場と位置づけています。本学に集う学生たちが、より有意義なキャンパスライフを見出すことができるキャンパス環境の充実を図っていきたいと考えています。

■施設概要

- ①1階 学生たちの憩いの場となるオープンスペースで、216箇所の情報端末と無線LANを設置することで、館内で最大1000人が同時にインターネットを利用することができる。65インチ×9面の大型スクリーンも設置しており、展示会や発表会などのイベントスペースとしても利用することが可能で、情報の収集と発信ができるコミュニケーション機能を充実させた。また、学生生活課とボランティアセンター事務室が入り、課外活動に関する学生の相談窓口も設ける。
- ②2階 食堂などを運営している「関西大学生生活協同組合」が移転し、学生へのサービスを充実。約1100席を配備した快適なレストランフロアでは、約100種類のメニューを用意。カレー専門店、ラーメン専門店もオープンする。おしゃれな雰囲気の中で、ゆったりと食事を味わうことができる。
- ③3階 2階と同じく、関大生協が移転。教科書、パソコンなどの勉学必需品や、文具、一人暮らし用品、化粧品といった日用品などの物品のほか、旅行相談、運転免許、コピー、部屋探しなどのサービスを提供。男女とも利用できるカットハウス、フットマッサー

ジやネイルアートのサービスを提供するボディケアショップ、さらには焼きたてのパンが食べられる約100席のベーカリー・カフェも併設され、学生生活を幅広くバックアップする。

また、3階南側の外壁面には、からくり装置の「カリヨン」を設置。校章をあしらった扉が演奏時に開き、13個のベルが揺れながら学歌を演奏。関西大学の新しいシンボリックな存在となる。

- ④4階 学生たちの課外活動専用施設を整備。300人を収容できるミーティングルーム、充実した音響・照明機能を持ち120人を収容できる小ホール、和室と会議室各2室となっている。クラブ・サークルの集会や他大学との大規模な大会、音楽、演劇の公演等、学生たちが様々な課外活動に打ち込める充実した内容となっている。また、和室は、茶道、書道、邦楽、能楽、落語等、日本の伝統文化に関する課外活動団体の利用に供する。

- ⑤屋上庭園 全面に庭園をつくり、創立120周年にちなんで桜の木を120本植栽。その他、種々の草木が季節を通じて彩りを添え、ゆっくり眺めることができるベンチを配置。緑が多く、自然と共生してきた千里山キャンパスに、新たな名所が誕生する。

■設備概要 コージェネ導入で環境に配慮したエコキャンパスを実現

①環境配慮型エネルギーシステムの導入

- ◇太陽光発電、風力発電（研究用）、世界最高の発電効率40.8%のアドバンスミラーサイクルエンジンを2台設置したコージェネレーションシステムを導入。最大約1650kwの電力供給が可能で、発電された電力は凧風館で使用するが、余った電力は千里山キャンパスの他の施設にも供給する。
- ◇コージェネレーションシステムからの排熱は、凧風館1階に設置されている床暖房をはじめ、冷暖房、厨房の給湯のほか、隣接している建物の冷暖房にも利用。
- ◇太陽光発電はNEDO（独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構）から、太陽光発電新技術等フィールドテスト事業として補助金を受けている。
- ◇電力の出力状況を2階レストラン南西入り口に出力表示パネルで表示し、学生のエコ意識を啓発していく。

②省エネルギー設備の導入

- ◇屋上庭園、LOW-E 複層ガラスの窓ガラス、人感センサーと明るさセンサーを持つ高効率照明器具をそれぞれ採用。ヒートアイランド現象の抑制、窓ガラスの断熱性・遮熱性の向上による冷暖房負荷の軽減、照度を均一に保つことによる照明負荷の軽減など、省エネルギー性を向上。

③給 水

◇すでに千里山キャンパスで導入している地下水活用システムを凧風館でも導入。また、屋上の雨水を集め、屋上や外部の散水に利用する。

④厨房設備

◇「厨房喚起天井システム」を導入し、HACCP に基づく「大量調理施設衛生管理マニュアル（厚生労働省）」で要求されている室温25℃、湿度80%以下を実現。作業環境および衛生環境を向上させ、調理品質と安全性を向上した。

◇1日6000食分の生ごみ（200kg相当）を処理できる生ごみ処理機を導入。食物残渣を19時間の加熱乾燥処理で5分の1に減量して廃棄およびリサイクルすることで、食品リサイクル法に対応する。

⑤その他

◇古紙80%使用のダンボール製空調ダクトを4階小ホールに採用。

◇防汚型衛生器具や汚垂石、バイオグリストラップの設置により清掃費を削減。

◇建物周辺に透水性のアスファルトを採用。土への雨水の浸透により微生物の死滅を防ぎ、地下水を作り出す自然のサイクルを損なわないように配慮。

■名称の由来

総合学生会館の建設にあたっては、2003年5月から6月にかけて、学生（学部生、大学院生、関大一高生、関大一中生を含む）を対象に、イラスト・イメージ図のコンペ・ネーミング募集・アンケートを実施し、できる限り学生の声を建物に反映した。

「凧風館」の名称は、学長賞に選ばれた経済学部（当時2年次生）の村田卓優さんの作品「風凧館（ふうりんかん）」を入れ替えたもの。「凧とした風のごとく、威風堂々とした」という意味である。

【この件に関するお問合せ先】

関西大学 総合企画室広報課 / 川瀬 北谷

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35 TEL:06-6368-0075 FAX:06-6337-7078

<http://www.kansai-u.ac.jp>